

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 広島県安芸郡熊野町立熊野東中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒 731-4213
広島県安芸郡熊野町萩原1-23-1

E-mail higasiyh@piano.ocn.ne.jp

Website <http://www15.ocn.ne.jp/~higasiyh/>

児童生徒数 男子 242 名 女子 184 名 合計 426 名
 児童・生徒の年齢 13 歳～15 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

○第1学年の取組

・筆作り

熊野町商工会議所の事業とタイアップした取組である。熊野町は筆の生産が全国シェアの8割を超える筆の都である。1月19日(木)、地域の伝統工芸である「筆」について、伝統工芸士から作り方を学び、マイ筆を制作した。



○第2学年の取組

・大使館訪問

12月5日(月)～12月7日(水)の3日間、修学旅行で東京方面に行った。グループに分かれて大使館を訪問し、筆作りをはじめとする熊野の伝統や文化をPRする取組を平成27年度より始めた。4～8人のグループに分かれて、14カ国の大使館を訪問し、英語でPRした。



・職場体験学習

7月4日(月)～8日(金)の5日間、熊野町内の各事業所で職場体験学習を行った。伝統的な筆を生産する事業所もあれば、化粧筆を生産している事業所もある。実際の生産現場から、筆作りを体験したり、流通の実際を学習する。筆産業だけでなく、どのような事業所が存在するのかを理解し、自分と地域との関係を考えながら、将来を見据える機会となった。



○第3学年の取組

・絵手紙

熊野町には「筆の里工房」という施設があり、この施設が主催する「ありがとうのちょっと大きな絵手紙大賞」に作品を応募した。自分に関わる人や物に感謝し、その気持ちを熊野の筆を使って書き表していく。10月14日(金)に筆使いや書き方について、地域の方をゲストティーチャーに招いて、教えていただいた。



・郷土料理「八寸」

「八寸」は熊野の郷土料理で、直径が八寸(約24cm)の器に盛られたことからこの名前がついている。ハマチやブリのアラ、豆腐を入れるのが特徴で、祭りや冠婚葬祭など人の集まるときによく作られていた。このような伝統的な郷土料理の調理を体験し、継承するために、12月12日(月)～16日(金)、地域の方々から教えてもらいながら「八寸」を作った。



地域の方々を招き、自分たちの作った「八寸」でもてなしをし、地域の方々とのつながりが密になった取組であった。

○全学年の取組

・彼岸舟・東中ソーラン

9月10日（土）の体育祭の取組において、熊野の伝統である「彼岸船」を披露し、「東中ソーラン」を全校生徒で作りに上げる。

「彼岸船」は、彼岸である筆まつりの日に引くもので、約80年前から行われており、今では地元保存会の方々により、筆まつりの一環として盛大に行われている。本校の「彼岸船」も保存会の方々の協力で飾り付けられる。その「彼岸船」を、体育祭で筆まつりと同様に披露する。

「東中ソーラン」は、生徒が築きあげてきた本校の伝統であり、代々、上級生が下級生に教え、受け継がれてきたものである。全校生徒が心を一つにして踊り、体育祭で発表した。

「彼岸船」の飾り付けや「東中ソーラン」の法被などは、地域の方々の募金によってまかなわれており、地域の支援がなくては成り立たない取組である。



○生徒会での取組

・アルミ缶の回収

毎月1日を「アルミ缶デー」とし、家庭で出たアルミ缶を回収し、再利用する活動を行った。回収するだけでなくアルミ缶を再利用することで、ポークサイトから作るときに比べ約97%のエネルギーの削減ができることを学習した。また、回収ありきの活動だけでなく、委員会と中心にゴミが出にくい生活スタイルについて考える機会も設けた。

・ユニクロとの連携 「届けよう服のチカラプロジェクト」

現在、準備中ではあるが来年度ユニクロと連携して服のリサイクル運動を開始する。生徒が自分の行動が社会に影響を与え、国際社会の一員であるという自覚を持ち、国際理解を深められる活動にしていきたい。

○教員の研修

・エネルギー環境教育の推進

2月に広島県で開催されたエネルギー教育地域会議に、3月には東京都で開催されたエネルギー環境教育フォーラムに参加した。この二つの研修会では各校で実践されている授業を学ぶことができ、他校との交流を深めることができた。本校でも、来年度以降、理科を中心としてエネルギー環境教育を推進していく。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）